

第3学年国語科学習指導案

日 時 平成23年9月30日(金)6校時
学 級 3年2組(男子18名女子15名計33名)
場 所 3年2組教室
指導者 佐藤奈津子

1 単元名

「説得力のある文章を書こう－意見を主張する」(光村図書 3年)

2 単元について

(1) 教材観

中学校国語科における「書くこと」の指導の中で、第3学年では、「社会生活の中から課題を決め」、「自分の考えを深めるとともに」、「適切な構成」、「論理の展開を工夫し」、「説得力のある文章を書くこと」が求められている。

これまで生徒たちは、第1学年では「わかりやすく説明しよう」で、目的と相手に合わせた情報の選び方を、「調べたことを正確に伝えよう」や「言葉を探検する」では、課題の見つけ方、情報の集め方、また、レポートの書き方として、調べたことと考えたことでは、文末表現を使い分けることなどを学んできた。さらに第2学年では、「人物紹介パンフレットを作ろう」で、情報の集め方と編集の仕方を、「根拠を明らかにして書こう」では、自分の立場と根拠を明確にした文章の書き方を学んできた。

また、これらの学習の中で、文章の構成、具体例や根拠の大切さ、推敲の仕方、ナンバリング等の表現の工夫等も学んできた。さらには、2年間を通して、「読むこと」「話すこと・聞くこと」の領域の中でも、文章の基本的な構成について学び、表現する時は、構成を意識することで、書いたり話したりしやすくなること、また、聞いたり読んだりする時も、構成を考えることで理解しやすくなるということを実感しながら学んできた。これらの学習を生かし、今回は、自分の意見をはっきりと主張できる、説得力のある文章を書くことを目標として学ぶ。

学校生活、社会生活の中で、自分の考えを伝えるべき場面はたくさんある。その際、まとまりのない文章、伝えたいことが不明確な文章、意見の根拠がはっきりしない文章では、相手に伝わらない。伝えるためには、自分の意見を明確に持ち、説得力のある文章を書かなくてはならない。根拠や具体例などを含めた、説得力ある文章構成について学び、説得力のある文章を書けるようにしたい。

教科書では、マッピング等により、日頃の生活の中から問題点を見付け、課題を決める例が挙げられている。しかし、より具体的な意見を述べられるよう、また、視野を広げ、多様な意見が出されるよう、新聞を活用することとした。さらに、思考力・判断力をつけるという意味でも、話題が豊富で生徒の興味を誘うという意味でも、新聞を活用する意義は大きいと考える。

新聞記事の中で、自分が意見を述べたいものを選び、社説を通して学んだ構成を用いて、意見文を書く。この学習の中で、説得力のある文章を書く力を身に付けさせたい。

(2) 生徒観

これまでの授業の中では、学習計画に沿って、生活の中から話題を見つけ、基本的な構成を理解し、「書く」準備を進めることができた生徒が多かった。実際に書く際にも、準備したことを生かして、構成を意識した文章が書けた生徒が多かった。しかし、構成は整っているものの、一人一人の個性、思いが感じられる文章や、深みのある文章というところまでには至っていない。

また、1年時の標準学力検査の結果では、「書くこと」の10問の平均通過率が77%、1年時の学習定着度状況調査の2問の平均正答率が56%、2年時の2問の平均正答率が41%で、一問ずつの正答率を見ても、19%から97%とばらつきがあり、安定した力が身に付いていないことがわかる。特に、低かったのは、2年時の学習定着度状況調査の「提示された資料から課題を見つけ、根拠を明らかにして自分の考えを書く」19.0%、1年時の学習定着度状況調査の「課題を見つけ、自分の考えをまとめる」47.5%であった。逆に高かったのは、1年時の標準学力検査の「材料を吟味して書く」97%、「考えを明確にして書く」97%、2年時の学習定着度状況調査の「文章の形態に応じて適切な構成を工夫する」63.5% (県平均より10ポイント高い) であった。

さらに、生徒たちが日常生活の中で、あまり新聞、ニュースにふれていないという実態がある。テレビで得た情報まで含めても、最近起こったニュースを把握している生徒は少ない。

家庭学習については、漢字練習をほぼ毎時間課しているが、決められた回数をやり遂げてくる

生徒は7割程度である。ワークブックを用いた予習と復習については、最終的な合格率は8割程度だが、予習ができていない生徒は少ない。しかし、今回取り組んでいる新聞のレポートは、9割以上が提出している。

生徒がこの学習に、興味や意義を感じていることが窺える。

(3) 指導観

日常生活の中で、自分の考えを求められる、または、伝えるべき場面はたくさんある。伝えるためには、自分の意見を明確に持つこと、そして、自分の意見が確実に相手に伝わる、説得力のある文章を書く力が必要である。文章の構成を学び、新聞記事を読んで自分の意見を持ち、学んだ構成に沿って文章を書くという学習は、実際の社会生活に即した「書くこと」の育成につながる。また、この学習においては、「読むこと」も必要であり、総合的に力を伸ばせると考える。

しかし、生徒達は実際には、あまり新聞を読んでいない。そのため、国語の力を支えるための活動として、今年度から、朝の短学活の中で、ニュース発表の時間を設けている。内容としては充分ではないが、世の中の動きを意識する目が育ち始めている。更に今回の授業に向けて、新聞を切り抜き、内容をとらえ、一言感想を書く家庭学習に取り組ませている。このレポートを授業の中で活用していきたい。

また、確実に力をつけるために、身に付けるべき力を明確にし、生徒自身に実現状況を振り返らせ、定着させていきたい。定着とは、この単元だけでなく、他の「書くこと」または、「話すこと・聞くこと」の学習にも生かせる確かな力を身につけることと考える。生徒がわかった、できたと実感し、学習したことが生きた力として身に付くようにしたい。

生徒達が、身に付けたい力を意識し、見通しをもって学習を進めていくため、また、実現状況を振り返るために、単元の学習計画ともなっている「ふり返しカード」を使用する。毎時間の授業の目標の他に、家庭学習の計画も載せ、より見通しをもって学習が進められるようにした。

以上の指導を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図りたい。

3 単元の目標・指導計画・評価規準

(1) 目標と評価規準

	単元目標	評価規準
国語意欲・関心態度・	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞記事を興味をもって読み、自分の意見をもって、説得力のある文章を書こうとする。 ○説得力のある文章を書くことの大切さを感じ、これからの学習、生活に生かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な新聞記事を読み、自分が論じたい記事を選び、自分の意見をもって、説得力のある文章を書こうとしている。 ○説得力のある文章を書くことの大切さを感じ、これからの学習や生活に生かそうとしている。
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞記事と社説を読んで意見文の書き方を理解し、その構成を生かすことができる。(ア) ○論理の展開を工夫し、説得力のある文章を書くことができる。(イ) ○仲間と互いにアドバイスし合い、アドバイスを生かして原稿を練り直すことができる。(ウ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞記事と社説を読んで意見文の書き方を理解し、その構成を自分の意見文に生かしている。 ○新聞記事の中から、論じたいポイントを見つけ、それに対してどのような意見を述べることが明確にしている。 ○自分の意見をどのように述べるか考え、論理の展開を工夫している。 ○仲間と読み合い、良い点、改善点を伝え合い、それを生かして原稿を練り直している。
言語知識・理解・技法の能力	<ul style="list-style-type: none"> ○辞書を用いながら、伝えたいことに合った適切な語句を選択することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○辞書を用いながら、自分が伝えたいことに合った適切な語句を選択している。

(2) 指導計画と評価規準

時間	学習活動	評価規準		
		国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを確認し、単元の見通しをもつ。 ・新聞記事を読み、内容を押さえる。 ・この記事に関する社説を読む。 ・社説、教科書の例文を基に、意見文の構成を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを確認し、学習の見通しをもととしている。 ・新聞記事の内容をつかみ、それに対してどんな意見があるのか興味を持って読んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいに沿って、新聞記事や社説を読んでいる。 ・意見文の基本的な構成を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の見出しの言葉や、写真、キャプション等に着目しながら、記事を読んでいる。
2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が準備してきた記事を読み、自分の意見をまとめる。 ・グループで持ち寄った新聞やインターネットを活用して、記事に関連する情報を集める。 ・意見文の構成を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見文を完成させるために、取材したり、構成を考えたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事の内容に対して、自分の意見をまとめている。 ・意見を説得力のあるものにするため、取材したり、構成を考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書で難語句、重要語句を調べながら、新聞記事やその他の情報を読んでいる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・考えた構成を基に、意見文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備してきたことを生かして、意見文を書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備してきた材料を生かし、考えた構成に沿って、意見文を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書で言葉を確認しながら、書き進めている。
5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と互いにアドバイスし合い、意見文を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい意見文にするため、仲間とアドバイスし合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や仲間からのアドバイスを生かし、意見文を練り直している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりわかりやすく説得力ある文章になるよう、言葉を選び直している。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・意見文を発表する。 ・仲間の発表を聞き、意見の述べ方を学び、自分のものの見方や考え方を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の発表から、表現や考えを学ぼうとしている。 ・文章を書くには、説得力をもたせることが大切であることを感じ、これからの生活の中で、学んだことを生かそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の発表を聞き、論理の展開の仕方や、表現の仕方などを学んだり、自分のものの見方や考え方を深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の使い方に気を付けて発表を聞いている。

4 本時の指導

(1) 目標

説得力のある意見文となっているか、仲間の作品を読んでアドバイスし合い、そのアドバイスを生かして意見文を練り直し、完成させることができる。

(2) 評価規準

評価場面	具体的評価規準		努力を要する(C) 生徒への手だて
	十分に満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	
<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と互いにアドバイスし合い、意見文を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の作品を読み、説得力のある意見文となるよう的確なアドバイスをしている。 ・家族や仲間からのアドバイスを生かして作品を練り直し、説得力ある意見文を完成させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の作品を読み、説得力のある意見文になるようアドバイスしている。 ・家族や仲間からのアドバイスを生かし、意見文を練り直している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を読み、自分がわかりにくいと感じたところを指摘させる。 ・家族や仲間からのアドバイスの意味を考えさせる。

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点（教師の指導○評価◎研究の視点☆）
導入 (2分)	1. 本時の課題を把握する。	○「ふり返しカード」により、本時の目標を確認する。 ○授業の目標を明確にし、生徒にも意識させる。
互いにアドバイスし合い、意見文を完成させよう		
展 開 (45分)	2. 家庭学習である家族からのアドバイスを、全体で発表し合い、解決への見通しをもつ。 3. 説得力のある意見文にするための、仲間へのアドバイスのポイントを確認する。 4. グループごとに互いの意見文を読み、アドバイスし合う。 5. 家族と仲間からのアドバイスを生かして、意見文を練り直す。 6. 練り直した意見文を、グループの仲間と再度読み合う。	○このあとの仲間へのアドバイスの参考となるよう、前時までに確認した説得力のある意見文を書くための3つのポイントごとに、整理しながら板書する。 ○自分がもらってきたアドバイスが、何番のポイントに当たるか確認し、ポイントに沿ったアドバイスの具体的なイメージを持つ。 ☆【家庭学習の評価と関連づけ】 家族からもらってきたアドバイスを発表し合い、仲間へのアドバイスの参考とする。 ○前時までに確認した説得力のある文章を書くためのポイント ①伝えたい主張（提案）をはっきり書く。 ②説得力のある根拠を示す。 ③構成が整っている。 ○抽象的なアドバイスではなく、ポイントに沿ったものとなるようにする。 ○事前に3人のグループを作り、知らせておく。 ○原稿とアドバイスを記入するプリントを順に回して、一人分ずつ読み、アドバイスを書く。 ○終わったら、自分がもらったアドバイスを読む。 ☆【思考力・判断力・表現力等の育成を図る指導過程】 相手へのアドバイスを考えること、それらを生かし、意見文を練り直すことで育成を図る。 ◎仲間の意見文を読み、説得力のある意見文になるよう、ポイントに沿ってアドバイスしている。 ○練り直すうちに、内容が新聞記事から離れていかないよう、新聞記事を確認させる。 ○ワークシート③の意見文の計画も確認させる。 ☆【家庭学習内容の関連づけ】 家族からもらってきたアドバイスを推敲に生かす。 ◎家族や仲間からのアドバイスを生かし、意見文を練り直している。
終末 (3分)	7. 本時の学習をふり返し、次時の学習内容を確認する。	○「ふり返しカード」を使い、本時の自分の学習を振り返る。 ○次時は、完成した意見文を発表することを確認する。 ☆【家庭学習の課題設定】 「ふり返しカード」を使い、今日の家庭学習の内容が、意見文を読み直して最終確認することであることを確認する。